

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：12608

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K04504

研究課題名（和文）場所の形成と地域の多層構造に着目した、空間再編と地域創造圏の動的生成プロセス

研究課題名（英文）The process of spatial reorganization and the formation of regional creative zones, focusing on the accumulation of places and the multilayered structure of the region

研究代表者

真野 洋介（MANO, Yosuke）

東京工業大学・環境・社会理工学院・准教授

研究者番号：70329134

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：一点目は、各圏域の中心的空間における公共空間・低ストックの活用の動きと、市民・事業者等により活用されている個々の場所、活動の補完関係が明らかになった。屋外やシェア空間を利用したプログラムと、開放性やコミュニケーションに対するニーズの高まりなどがこうした関係を後押ししたことが示唆された。二点目は、各地域それぞれに近隣スケール、中心市街地の地区スケール、周辺地域を含む広域スケールの重層的なネットワークが、各圏域の特定エリアの空間再編に影響を及ぼす一方で、創造的活動の範囲は広域の中で相互に影響しながら一定の圏域に広がり、構築されていくことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第一に、10万人規模の地方都市を核とした圏域における、2010年以降の10年間とコロナ禍の間に開設された場所、活用ストック、個人や組織による活動とプログラムを包括的に把握し、歴史的市街地を中心とした都市空間の再編に、創造的活動の連関が及ぼした影響を明らかにしたことである。第二に、スポンジ化と呼ばれる、地方都市特有の虫喰い状の低未利用地に対し、場所の集積と活動は、個々には小規模で分散しているものの、エリア全体では数十から約百箇所集積し、そのネットワークが新たな近隣生活圏の形成に寄与し、10年の時間軸の中で役割を変えながら、エリア拡大や連携をもたらす推進力となっていることを解明したことである。

研究成果の概要（英文）：The first point of the research findings is that it revealed a complementary relationship between the movement to utilize public space and low stock in the central spaces of each region and the individual places and activities being utilized by citizens, businesses, and others. It was suggested that programs using outdoor and shared spaces and the growing need for openness and communication have encouraged these relationships. The second point of the research findings is that while the multilayered network of neighborhood scale, central city district scale, and wide-area scale, including surrounding areas, in each region influences the spatial reorganization of specific areas in each region, the scope of creative activities spreads and builds in a certain area while interacting within the wide-area.

研究分野：都市計画

キーワード：都市再生 市街地整備 地方創生 エリアリノベーション 近隣住環境 歴史的市街地

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

東日本大震災以降、地方における都市・地域の再生は、国の地方創生政策に基づく「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や中心市街地活性化計画、都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画等、自治体を単位とした計画システムや事業手法等に規定される部分が多く、内容の均質化や地域間連携の障壁等が課題となっていた。一方、地域の日常的な経済・社会圏域の生成を活かした、企業や非営利組織等による優れた実践の積み重ねとネットワーキングなどが進みつつあり、両者のギャップを埋める、動的な計画論とプロセスの確立が求められていた。

### 2. 研究の目的

そこで本研究では、東日本大震災が発災した 2011 年を節目とした時間軸を設定し、自治体の区域を越えた地域の多層構造を捉え、空間変容や地域指標の変化だけでなく、個々の主体の多様な志向や動きを認識した上で、場所の形成、集積とそれを動かしてきたガバナンスを把握し、広い範囲における空間再編と地域創造圏の動的生成プロセスの解明と、2021 年以降の 10 年に向けて示唆可能な計画論を構築することを目的とする。

### 3. 研究の方法

最初に、本研究の主な目的である地域創造圏生成プロセスの分析対象地域として、広島県尾道市を中心とする環瀬戸内海中央圏域、富山県高岡市を中心とする北陸富山湾沿岸圏域、宮城県石巻市を中心とする三陸沿岸圏域、岐阜県中津川市を中心とする東美濃中山道沿道圏域の 4 地域を選定した。

次に、これら 4 つの圏域の中心都市と周辺地域をつなぐハブとなる歴史的市街地や街道、港湾施設周辺のエリアを抽出し、各エリアごとの戦後以降の歴史的変容と、主に 2000 年以降の 20 年間における場所の形成と集積、エリアリノベーションに関する活動主体とイニシアチブの形成について分析した。また、これらの一連の場所の形成過程とエリアのマネジメントに関与した組織と個人に対してヒアリング調査を実施し、前者との相互関係について分析した。

2020 年以降は特に、コロナ禍前後の空間と場所の変容に関する調査を実施し、その結果の中で特徴的な場所と活動に関係する個人を抽出し、各個人ごとのライフシフト(人生や仕事、暮らしの選択と価値観、キャリアの変化)と場所形成、活動ネットワークの展開、場所形成を通じた地域におけるプロジェクトと事業展開に関するヒアリング調査を実施した。

これらの調査結果や分析結果を示した地図や小冊子等を用いて、各エリアの関係主体や研究協力者とのディスカッションを実施し、空間再編と地域創造圏の動的生成プロセスに関する知見を再度抽出した。

### 4. 研究成果

上記分析により得られた知見は、以下の二点にまとめられる。

一点目は、地域内の公共空間・低未利用ストックの活用をめぐる動きと、市民・事業者等により活用されている個々の場所、活動の補完関係が、コロナ禍以降、顕著に見られたことである。屋外空間やシェア空間を利用したプログラムと、各場所の一定のルールを持った開放性やコミュニケーションに対するニーズの高まりなどがこうした関係を後押ししたことが明らかになった。二点目は、各地域それぞれに近隣スケール、中心市街地・歴史的市街地の地区スケール、周

辺地域を含む広域スケールの重層的なネットワークが、中心市街地・歴史的市街地の特定エリアの空間再編に影響を及ぼす一方で、創造的活動の範囲は広域スケールの中で相互に影響しながら一定の圏域に広がりながら、構築されていくことなどが明らかになったことである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 真野洋介	4. 巻 114
2. 論文標題 地方における木造密集市街地再考：ローカル・モクミツへの新たな視点とまちづくりのフィールド再構築	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 都市問題	6. 最初と最後の頁 pp.42-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安本萌恵、山本紫乃、真野洋介	4. 巻 18
2. 論文標題 若年層の偶発的参加を誘発する公共空間活用を通じた、ワークショップ・プロセスのデザインと中心市街地のまちづくりにおける役割に関する研究 - 岐阜県中津川市「旗さしワークショップ」を事例として -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 住宅系研究報告会論文集	6. 最初と最後の頁 pp.179-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土井杏奈、真野洋介	4. 巻 57-3
2. 論文標題 東日本大震災の津波被災地域における震災復興で生じた商店街の新しい役割についての研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 1186-1193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11361/journalcpj.57.1186	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中田海央、山本響、加納亮介、真野洋介	4. 巻 第17号
2. 論文標題 役割を横断する個人同士が構築するチーム体制の実態と展開可能性 - 富山県高岡市のサカサカリノベーションプロジェクトを対象として -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 住宅系研究報告会論文集	6. 最初と最後の頁 173-182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三好沙季、松家雅大、真野洋介	4. 巻 第17号
2. 論文標題 コロナ禍以降の個人の生活スタイルの変化に対応した、公共空間活用と民間組織によるネットワークの構築に関する研究 - 岐阜県中津川・恵那地域の出店イベントを対象として -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 住宅系研究報告会論文集	6. 最初と最後の頁 163-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真野洋介	4. 巻 76巻9号
2. 論文標題 近隣の『再目的化』と『より良い暮らし』を志向した防災まちづくり	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 新都市	6. 最初と最後の頁 3-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真野洋介	4. 巻 111
2. 論文標題 旧市街の再目的化と再構築の視点から空き家問題と宿泊施設の関係を考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市問題	6. 最初と最後の頁 78-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加納亮介、真野洋介	4. 巻 55巻3号
2. 論文標題 中学校区における若年世代の居住動向と敷地活用実態に着目した持続可能な居住地形成についての研究:富山県高岡市における市街地形成時期の異なる町が連担する地域を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 220-227
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.55.220	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 町田 匠人、真野 洋介	4. 巻 55
2. 論文標題 商店街と宿泊施設に注目した、宗教都市における教勢の変化に伴う中心市街地の変容に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 1310～1317
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.55.1310	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加納亮介、真野洋介	4. 巻 54-3
2. 論文標題 高度経済成長期以降の旧市街地における商工業の構造変化を契機とした土地利用変容の実態: 地方商工都市・富山県高岡市の居住地再構築を目指して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 1192-1199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.54.1192	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加納亮介、真野洋介	4. 巻 26
2. 論文標題 通りや場所の環境改善を並行して進めながら構想を組み立てる居住誘導のプロセスデザイン: - 富山県高岡市旧市街地における自治会ごとの検討を通じた居住地再生を目指す「まちなか再構築」の実践 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会技術報告集	6. 最初と最後の頁 308-313
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aijt.26.308	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真野洋介、野田明宏	4. 巻 1
2. 論文標題 地域からの復興 COMICHI石巻	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 造景2019	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真野洋介	4. 巻 25
2. 論文標題 地域拠点の計画論とまち再構築 富山県高岡市での計画と実践	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本建築学会都市計画部門パネルディスカッション資料	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 鳥居由然、真野洋介
2. 発表標題 島嶼部での情報通信技術を用いた発信を主体的に活用した農業活動における地域への価値観流動について 広島県尾道市因島を対象として
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 門馬奈美、加納亮介、真野洋介
2. 発表標題 小規模な複合商業施設における半屋外空間の利用方法と主体の変化に関する研究 - 人生100年時代の地方都市から組み立てる、ライフソフトに対応した都市・地域のデザイン その7 -
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 市川達博、真野洋介
2. 発表標題 東日本大震災以降の被災地における拠点形成者のキャリアの変遷と地域への影響に関する研究 - 宮城県石巻市を対象として -
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 尾崎由芽、真野洋介
2. 発表標題 大都市都心部の寺町で開催されるマルシェから派生したネットワークが地域に及ぼす影響 - 名古屋市中区東別院エリアを対象として -
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中田海央、市川達博、加納亮介、真野洋介
2. 発表標題 富山県高岡市旧市街におけるリノベーションプロジェクトの連続的展開についての考察 - 人生100年時代の地方都市から組み立てる、ライフシフトに対応した都市・地域像のデザイン その6 -
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 矢原馨、三好沙季、真野洋介
2. 発表標題 沿道空間での第三者による活用における課題と展望に関する研究 - 原町田中央通りにおける社会実験「ENJOY! STREET!」でのケーススタディを通じて -
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三好沙季、松家雅大、真野洋介
2. 発表標題 公共空間活用における民間主体のネットワーク構築に関する研究 - 岐阜県中津川市の社会実験を通じて その1 -
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 松家雅大、三好沙季、真野洋介
2. 発表標題 公共空間活用における民間主体のネットワーク構築に関する研究 -岐阜県中津川市の社会実験を通じて その2-
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 臼井千尋、真野洋介
2. 発表標題 芸術祭を機に開設された場所の会期中及び会期外における多様な主体の関わりから見る 街と芸術祭の相互の影響についての研究 - Reborn-Art Festival を対象として -
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本紫乃、真野洋介
2. 発表標題 首都圏郊外地域における個人による販売活動の展開プロセスにおいて地域イベントが持つ役割に関する研究 おくまちいちを対象として-
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加納亮介、真野洋介、山本響、中田海央
2. 発表標題 歴史的市街地における低未利用化した建物を活用する個人の活動実態 -人生100年時代の地方都市から組み立てる、ライフシフトに対応した都市・地域像のデザイン その3-
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本響、真野洋介、加納亮介、中田海央
2. 発表標題 建物活用を行う個人の働き方と価値観の変化の分析の視点 -人生100年時代の地方都市から組み立てる、ライフシフトに対応した都市・地域像のデザイン その4-
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中田海央、真野洋介、加納亮介、山本響
2. 発表標題 個人の働き方と価値観の変化が建物活用に与える影響 -人生100年時代の地方都市から組み立てる、ライフシフトに対応した都市・地域像のデザイン その5-
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 矢原馨、真野洋介
2. 発表標題 都心近郊住宅地におけるコワーキングスペースの変容と利用者のライフシフトに関する研究-コロナ禍以降の川崎市におけるケーススタディを通じて-
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 土井杏奈、真野洋介
2. 発表標題 東日本大震災の被災地との関わりを通して価値観が変化した個人のライフシフトに関する研究 宮城県石巻市を対象として
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加納亮介、森川諒子、真野洋介
2. 発表標題 人の働き方から捉えるライフステージ変化とそれを起こす無形資産の蓄積に関する概念整理 -人生100年時代の地方都市から組み立てる、ライフシフトに対応した都市・地域像のデザイン その1-
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森川諒子、加納亮介、真野洋介
2. 発表標題 地方へのライフシフトにおける地域資源の蓄積と個人の資産形成の相互プロセス 富山県高岡市と南砺市を対象に - 人生100年時代の地方都市から組み立てる、ライフシフトに対応した都市・地域像のデザイン その2
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 町田匠人、真野洋介
2. 発表標題 商店街と宿泊施設に注目した、宗教都市における宗教施設と中心市街地の変容に関する研究 - 新宗教都市天理を対象として -
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 土井杏奈、真野洋介
2. 発表標題 東日本大震災を機に顕在化した課題と向き合う新規事業を通じた市民主体のまちづくりに関する研究 - 気仙沼市を対象として
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加納亮介、森川諒子、保谷しおり、真野洋介
2. 発表標題 旧市街地におけるスポンジ化からの新たな居住地創出へ向けた敷地整序の可能性 富山県高岡市を対象に -人口減少期の地方都市における歴史的市街地再生の実践的研究 その5-
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森川諒子、保谷しおり、加納亮介、真野洋介
2. 発表標題 旧市街地における若者の居住動向に着目した居住ニーズに合わせた住宅供給の可能性 富山県高岡市を対象に -人口減少期の地方都市における歴史的市街地再生の実践的研究 その6-
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 保谷しおり、加納亮介、森川諒子、真野洋介
2. 発表標題 旧市街地への居住誘導を目指して多主体が連携した、敷地整序型による居住スタイルの実践的提案 富山県高岡市を対象に -人口減少期の地方都市における歴史的市街地再生の実践的研究 その7-
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 真野洋介
2. 発表標題 拠点論～計画された拠点と現実 主題解説 市民まちづくりの視点から
3. 学会等名 日本建築学会大会都市計画部門パネルディスカッション（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加納亮介、馬場洸太、真野洋介
2. 発表標題 商工業の事業所異動に着目した旧市街地空洞化のプロセス 富山県高岡市を対象に
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 馬場洸太、加納亮介、真野洋介
2. 発表標題 歴史的市街地における生活者の記憶の抽出と継承の実践 富山県高岡市を対象として
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 真野洋介、坂村圭他38名	4. 発行年 2024年
2. 出版社 学芸出版社	5. 総ページ数 206
3. 書名 人生100年時代の都市デザイン 豊かなライフシーンをつくるソーシャル・インフラ	

1. 著者名 Sato Shigeru, Mano Yosuke, et al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 270
3. 書名 Japanese Machizukuri and Community Engagement : History, Method and Practice	

1. 著者名 都市史学会編、真野洋介他134名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 670
3. 書名 日本都市史・建築史事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------